

研究力向上セミナーⅡ（機械制御系） (Seminar of Mechanical and Control Research Skills Ⅱ)	1年・前期・2単位・必修 システム創成工学専攻 機械制御システムコース 担当 工学基礎研究担当教員・地域創生工学研究担当教員	
	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 C-1(80%), D-1(20%)	〔JABEE 基準〕 f, d-2b
<p>〔教育方法等〕</p> <p>概要：</p> <p>技術者には、自然科学や工学に基づいて、問題解決する能力を求められる以外に、その解決プロセスも含めて、それらの結論を他者に理解させるプレゼンテーション能力が求められる。学会などでの研究発表において効果的なスライドの作成方法やそのスライドを用いたプレゼンテーションの技術を習得することを目的とする。</p> <p>授業の進め方と授業内容・方法：</p> <p>学会などでの研究発表を行う上で重要なスライドの作成、それらを用いたプレゼンテーションの実践、および、工学基礎研究もしくは地域創成工学研究の指導教員とのディスカッションを行う。</p> <p>注意点：</p> <p>関連科目 工学基礎研究，地域創生工学研究。</p> <p>学習指針 プレゼンテーション技術を習得するためには、ソフトウェアの機能を用いてスライドを作成するだけでは効果的ではない。自分で発表練習を行いながら、スライドを修正していく作業が必要である。</p> <p>自己学習 プレゼンテーション技術の習得を通じて、研究力の向上を目指すこと。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>特に定めない。各自プレゼンテーションに関する文献（例えば下記）を参考にすること。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「発表の技法（講談社ブルーバックス，B1099）」，講談社，諏訪邦夫，1995。 「ブラッシュアッププレゼンテーションの技法」，TBSブリタニカ，作山宗久，1998。 「説明と説得のためのプレゼンテーション」，共立出版，海保博之，1995。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテーマに関して、他者に理解させる効果的なストーリー展開を考えられること。 ・プレゼンテーションにおいて、効果的なスライド作成ができること。 ・自分で発表練習を行いながら、スライドを継続的に修正できること。 ・作成したスライドを用いてプレゼンテーションができること。 ・プレゼンテーション後の質疑に対して、ディスカッションができること。 		
<p>〔評価割合〕</p> <p>スライドの評価(50%)，プレゼンテーションの評価(50%)。</p>		

授業計画

		週	授業内容・方法	到達目標	自己 評価＊
前期	1 週	2 週	プレゼンテーション 技法（全教員）	スライドの作成方法を理解できる。	
	3 週	4 週	プレゼンテーション 実践 1	1 週目にテーマを決めてスライドを作成し、2 週目にそのスライドを用いてプレゼンテーションを行う。 スライドについて評価を行うと共に、プレゼンテーションの内容に関して質疑応答を行うことによってディスカッションの実践を行う。 これらの過程を通じて、研究発表におけるプレゼンテーション技術を習得できる。 【教員の担当分野】 ○機械材料・材料力学関連 谷口幸典，島岡三義 ○熱工学関連 福岡寛，中村篤人 ○流体工学関連 小柴孝，坂本雅彦，廣和樹，中村篤人 ○機械力学・制御関連 酒井史敏，櫛弘明，飯田賢一，山口和也 ○機械工作・生産工学関連 和田任弘，玉木隆幸 ○設計工学・機械要素・トライボロジー関連 平俊男，西田茂生 ○知能機械学・機械システム関連 早川恭弘，矢野順彦	
	5 週	6 週	プレゼンテーション 実践 2		
	7 週	8 週	プレゼンテーション 実践 3		
	9 週	10 週	プレゼンテーション 実践 4		
	11 週	12 週	プレゼンテーション 実践 5		
	13 週	14 週	プレゼンテーション 実践 6		
	15 週	まとめ（全教員）		スライドの作成方法，プレゼンテーションでの注意点などを理解できる。	

* 4：完全に達成した，3：ほぼ達成した，2：やや達成できた，1：ほとんど達成できなかった，0：まったく達成できなかった。